

## SFC 研究所ラボラトリ年次活動実績報告書

ラボ名称	先端ウェブアーキテクチャ・ラボ			
ラボ代表者	氏名	村井 純	所属	慶應義塾大学
ラボ設置期間	2015年6月1日 ~ 2023年3月31日		7	年間

ラボラトリの学外研究拠点 ※学外の拠点で活動している場合、その詳細を記載ください。	
名称（例：東京〇〇ビル）	所在地（例：東京都〇〇区〇〇1-1 5F）

構成メンバー（提出時点）		
氏名	所属・職位	役割
村井純	教授	代表
中村修	環境情報学部・教授	アドバイザー
岸上順一	SFC研究所・上席所員	代表補佐
川森雅仁	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
芦村和幸	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
下濃淳司	政策・メディア研究科・特任講師	プロジェクト推進
鈴木茂哉	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
スミス・マイケル	政策・メディア研究科・特任教授	プロジェクト推進
前田至剛	SFC研究所・上席所員	プロジェクト推進
吉澤直美	SFC研究所・所員	プロジェクト推進・事務局

## 年次活動実績報告

### 研究活動報告 (設置申請書, 継続申請書の研究活動計画と対比するように記載してください。)

インターネットにおけるWebの位置づけは単なるブラウザとしてのプラットフォームから、通信(WebRTC)、金融(webPayment)、ID管理(DID)、信頼される情報(Verifiable Credential)、電子書籍(WebPublishing)など多岐にわたり、世界が一つの共通プラットフォームを通じて安心して、誰もが簡単にコミュニケーションできる場としてますます重要性を増している。その標準化を担っているのがW3Cである。

これまで本ラボはweb signageなどの推進役を果たすとともに、W3Cの活動を通じて日本の技術を世界に広げていくための役割も担ってきた。現在のインターネット、特にWebの技術は社会生活の様々な面に寄与しており、単なる技術的な標準を極めていくだけでなく、セキュリティ、プライバシーとの関連、さらにはデジタルフォーメーションの中で、如何に信頼性の高いプラットフォームを提供できるかというソーシャルキャピタル的社会実装の面が強く求められている。

さらに近年はWebの情報に対する信頼性が強く望まれており、使いやすさ、経済的なインパクトなど様々な観点からの検討が進んでいる。本ラボの活動を通じて幅広い観点から検討を行い、その結果をW3Cにおける活動に反映させてきている。またその結果がデジタル庁を中心とする政府のデジタル政策にも確実に影響を与えてきている。

このような認識から本ラボはこれまで強く技術標準を目指してきた活動から、実実装を技術者だけでなく、広くリベラルアーツ系の専門家と議論しながらバランスのあるWebデザインを目指して行き、SDGsにも呼応する幅広い活動を展開していく。

- ・信頼度の形成をネットワーク上で実現するためのアーキテクチャをデザインし、その有効性の確認方法をも構築し、結果を随時W3Cをはじめとして関連組織にフィードバックし醸成化した
- ・学術的なアプローチとしてIFIPなどの技術と精度の境界領域で議論を進めた
- ・GDPRとの整合を分析した
- ・ブロックチェーンラボと協力し、上記信頼性を如何にシステムとして実装するかを検討しフィールドテストを通じて実験し有効性の確認を進めた
- ・ホリゾンタルなアプローチとして、様々なW3Cの標準化においてセキュリティ、プライバシー、信用度などの観点を如何にバランスよく実現するかの具体的な進言を行った
- ・人々の信頼を「幸福度」の観点からとらえなおし、Social Capitalの文脈でより深い分析を試みた
- ・Fake newsなどに対する技術の標準化を目指し、実実装としての試みを探った
- ・標準化だけでなく学術的な貢献を通じて、より深くサステイナブルなアプローチを行った

研究成果（学術論文、著作物、メディア露出等）

なし